お役にたてば幸い劇場

第5回

■いまここにある危機 ―北海道防衛非常事態対策を―

知床の乗船客の捜索で全国に知られたように、国後島、色丹島、択捉島、歯舞諸島などロシア実行支配地は北海道の数キロ先にあります。ロシア人が泳いで亡命し、キタキツネは流氷を渡って行き来します。

平時における北方領土返還運動や対ロ経済協力などいままでの関係が根本から崩れた現在、北方四島は目の前に視認できる恐るべきロシアの浮沈空母と言えます。現に3月25日と4月1日に立て続けに行われたロシアの数千人規模の軍事演習では、根室市から照明弾の赤い光が見え、窓ガラスが震えたという話も聞いています。

尖閣諸島問題ははるか南方での国境紛争ですが、国後島は文字通り喉元に突き付けられた鋭利な大斧です。

歯舞島からは戦車砲弾が根室市に届きます。国道44号線と別海に抜ける道道、JR花咲線を歯舞島から砲撃されたら根室市民2万7千人は避難も脱出も出来ない人質になります。長距離ミサイルならば札幌市役所と道庁に2発の砲弾が被弾するだけで北海道の行政機能は壊滅します。泊原子力発電所燃料プールに着弾すれば北海道は人の住めない土地になります。

発射されてから数秒、数分後には多くの北海道民が死亡します。額に銃を突き付けられていながら専守防衛はムリでしょう。撃たれた瞬間に10倍返しで撃ち返すのでしょうか。「敵基地攻撃能力」の議論が必要です。

北海道は国境の島として北朝鮮の弾道ミサイルや津軽海峡の中国、ロシア戦艦の横行、戦闘機の領空侵犯など緊張感が増しており、これからは漁船の拿捕、銃撃など緊迫した事態が予測されます。1962年のキューバ危機はあわや核戦争というところまで行きましたが、北方四島には最早何を配備されても抑止できないのが現実です。いまここに目の前に危機があります。

いままでの「日本固有の領土であるから紛争も軍事行動もありえない」という建前と幻想、妄想を転換して、政府も道も東京湾にロシア空母が入ってきたのと同じ危機感で北海道の非常事態としての政府方針を具体化しなくてはならないと思います。

筆者紹介 株式会社あかりみらい代表取締役 越智 文雄

1980年北大法学部卒業。北海道電力、電気事業連合会、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。札幌なにかができる経済人ネットワーク主宰。